

## 海洋底衝上断層運動の際の応力 - 歪履歴の特異性：オマーン、ワジタイン地域のメタモルフィックソールの例

### Peculiar stress-strain history during intraoceanic thrusting: Wadi Tayin area, Sultanate of Oman

# 増田 俊明[1], 原 由生子[2], 木村 希生[1], 山浦 洋平[2], 溝上 周作[3], 釘宮 康郎[4]

# toshiaki masuda[1], Yuko Hara[1], Nozomi Kimura[2], Yohei Yamaura[3], Shusaku Mizokami[1], Yasuo Kugimiya[3]

[1] 静大・理・地球科学, [2] 静大・理・生地環, [3] 静大・理・生地, [4] 静大・理・環境

[1] Inst. Geosci., Shizuoka Univ., [2] Institute of Geosciences at Shizuoka University, [3] Inst. of Geosciences, Shizuoka Univ.

<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/~geo/Lab/Structure/Students/home.html>

オマーン、ワジタイン地域に分布しているメタモルフィックソール中のメタチャートを詳細に検討し、トーマリンとピーモンタイトのマイクロブーディング構造を発見した。マイクロブーディング構造の解析により相対的差応力値を求めることができるが、同時に差応力 - 歪曲線を推定することもできる。この地域ではマイクロブーディング構造を有するメタチャートは非常にまれで、今回の報告では1サンプルの解析結果を紹介する。マイクロブーディング構造が形成し始めたのは、変形が終了する直前で、歪量にすると - 0.05 からである。その後急激に応力の大きさは急激に上昇し、石英の塑性変形が終了する時期まで上昇し続けている。このような差応力値の推移は、一般の高圧変成岩地帯のものとは著しく異なっている。